

明日にむかって

●発行/陽光保育園創立40周年記念事業実行委員会 ●発行日/1989年7月1日
住所/東京都板橋区大谷口上町23-1 ☎(956) 1068

1949年夏、まだ敗戦の傷は癒えず貧困と社会の混乱の中で、親も子ども疲れ果てていました。大谷口の水道タンク前での緑陰保育が始まったのはそんな時代でした。それから40年、地域の方々や多くの善意の皆さんに助けられて、陽光保育園は、この地にしっかりと根を下ろすことができました。しかしながら、保育園をめぐる環境は、徐々に厳しさを増しつつあり、解決しなければならぬ問題も山積しています。こうした時代だからこそ、私たちは、この地域に根づいた陽光のいっそうの発展を願ってこの40周年という時点をステップにして、さらに活動を活発化し、「子供達の健やかな育ちの城」を充実させていく決意です。

四十周年記念の集い

成功はみんなの力で

みんなで築いた陽光保育園・オーケストラ演奏・記念レセプション

九月十日は陽光保育園創立四十周年記念の集い。卒園した子どもたちはすでに一千名をこえています。板橋の、東京の、日本中のあちこちで、一所懸命生きています。よう。父母、職員、卒園児、後援会、その他陽光保育園四十周年の歴史の中で、園を支持していただいたたくさんの方々と一緒にこの日を迎えたいと願っています。『記念の集い』では、はじめに『みんなで築いた陽光保育園』を歴史をふりかえりながら確かめたいと思います。続いて、期待が高まっている『東京コレギウム・オリジナル』によるコンサート。卒園児のみなさんもぜひ聴いて下さい。モーツァルトをオリジナル楽器により演奏します。とても素晴らしい音楽会となることでしょう。

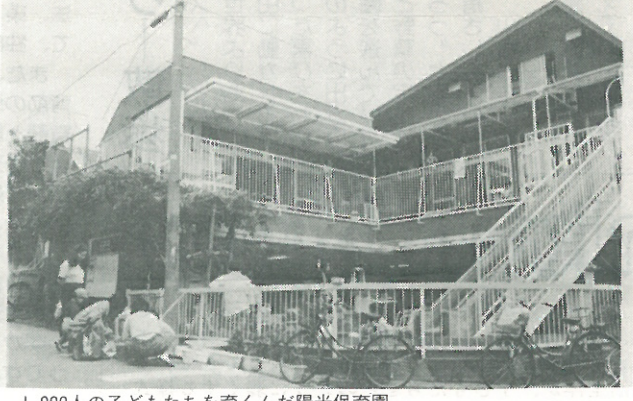
う。楽しみにして下さいます。コンサートの前には記念レセプションです。会場を大ホールから大会議室に移して関係者楽しく交流し、祝杯をあげたいと思います。さて、みなさん。板橋・文化会館大ホールは一四〇〇席あります。保育園関係者はもとより、音楽ファンの方々にもぜひ気軽にご参加いただきたいと思えます。友人、知人、職場、地域の方々にお誘いいただき、満席にしたいと願っています。ポスターやお誘いいただき、チケットの山用意してありますので活用いただき、チケットの販売にご協力下さい。実行委員会はエンジン全開で記念事業成功のために奮闘したいと思えます。

四十年をむかえた 陽光保育園

陽光保育園が板橋・大谷口で保育の仕事をはじめたから四十年。すでにみなさんご存知のように、この街のシンボルでもある水道タンク前の広場で青空保育をはじめたのが昭和二十四年(一九四九年)夏のことです。この間四十年、在園児父母、卒園児父母、そして職員や理事、陽光保育園の関係者はもちろん、ご近所のみならず、地域の方々、さらに行政関係者、区内、都内の保育関係者のみなさん、ほんとうに沢山のみなさんの知恵や勇気にささえられて、今まで仕事を重ねてまいりました。みなさんに心から感謝申し上げます。

陽光保育園は現在、産休明けから就学までの乳幼児七十九名の定員をもって保育をしています。産休明けからの保育については十年前、当時の公的な補助が受けられず、一、九〇〇万円(二十年分割返済)の借金と園債発行、寄附金募集と多くのみなさんのご協力のもとスタートしました。毎年二回、地域ぐるみのとりくみでバザーを開催、借金の返済をし

てまいりましたが、その返済もおかげ様で折り返し点に立ちました。そしてこの十年間に延六十名余りの赤ちゃんを受け入れてきたことになりました。あれから十年。この春、早くも園舎は大規模修繕が必要となり、内外壁の塗装、床の貼りかえ、水漕ポンプ改修等、化粧直しをしてホッとひと息ついたところです。陽光保育園の保育もこの十年、産休明けからの保育のとりくみや、障害をもった子どもたちを積極的に受け入れることにより、大きく変化し前進することができたように思います。地球規模での生活環境の破壊が進むなかで、人間が人間らしく生き、育つことが大変むずかしい時代です。心身ともに健やかで、かしこく、豊かな人間性をもった子どもに育てあげていくことに保育者たちは日々おしみなない愛をもって努力を重ねていくところです。



1,000人の子どもたちを育んだ陽光保育園

一九八九年。創立四十周年という輝かしい年を陽光保育園は迎えました。しかし、保育をめぐる情勢は益々きびしく、日本の政治・経済の動向の波が意外と早く保育園を直撃するようになってきました。多くの国民の反対をよそに強行採

陽光保育園は新しい時代の中で、これまでの四十年にも増して多くの課題に直面していかなくてはならない。働く人々とその子どもたちの幸せを願い、みんなで築いてきたものが、少しずつ、少しずつ、あるいは一挙に崩れてしまうかもしれない。私たちは社会に向かつては子どもたちの代弁者として、子どもたちには社会の代表者として精一杯のことをしなければなりません。

記念事業成功のために 募金のおねがい

去る五月二十七日、陽光保育園の理事会は、創立四十周年記念の集いのために、そして将来は陽光保育園の明日を拓くための「ひまわり基金」につながるよう関係者のみなさんをはじめ、記念事業にご賛同いただけるすべてのみなさんに募金をお願いすることを決定いたしました。九月十日「記念の集いとコンサート」のチケット販売とあわせてご協力をよろしく願っています。

広告を募集します

九月十日(日)板橋文化会館大ホールにおける「記念の集いとコンサート」に参加のみなさんに配布するプログラムに掲載の広告を募集いたします。内容はつぎのとおりです。

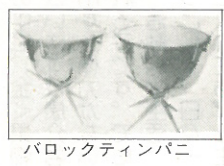
- 一口百円。
- 何口でも受け付けます。
- チケットの支払いにもこの口座座をご利用下さい。

締切 八月初旬
料金 70円×35席(10頁) 五千元
150円×230席(1頁) 五万円
連絡 陽光保育園 星野・細川まで

※郵便振替口座番号
番号/4125167
名称/社会福祉法人陽光保育園

オリジナル楽器を用いた演奏とは？

オリジナル楽器ということばをはじめて耳にされた方もいらっしゃると思います。かんたんにいえば、オリジナル楽器とは現代のモダン楽器に対比して呼ばれるもので、普通バロック時代やそれ以前のルネサンス時代の楽器をさし、構造、音色、ピッチ、奏法が異なります。この楽器を用いて演奏するのは、何も奇をてらったり、格好をつけるためではありません。音楽学の進歩を背景として、一部の指揮者や演奏家は、ルネサンスやバロックの音楽をモダン楽器を用いて演奏する不自然さが気になりだしたのです。例えば、刺身を洋ガラシとソースとで食べるようなものでもいえるでしょうか。現在は当然のことその目はモーツァルト、ベートーヴェンにも向けられています。オリジナル楽器を用いた音楽は特別なものではありません。作曲家はこのような楽器の音色をイメージして作曲したわけですから、当時の音楽の要求する楽器ということができるでしょう。そしてオリジナル楽器による演奏は世界の人々から支持されはじめています。(H)



バロックティンパニ

新見俊昌先生講演会 子どもの絵をとおして子育てを考える

陽光保育園子どものしあわせを願う会

五月十四日(日)、第十小学校体育館において、父母、職員、地域の方々、二十二保育園、三小学校、百三十名余りの参加者を集め、講演会が行われました。

新見先生(滋賀大講師、「美術教育をすすめる会」事務局長)のお話は「子どもの絵は、たんに絵ではなく、いとしい成長のアルバムです」ということから始まり、「〇歳児期からすでに美術教育の第一歩である感性が育ち始めていること、一歳児〜五歳児の全国の子どもの絵をスライドで見ながら発達をとらえたお話をしてくださりました。『子どもの絵は聴くものである』絵は子どものメッセージ、文字をまだ学習していない子どもは描くことによって自分の思いを伝えようとしている。『絵は具体的な生きた話しことば』幼児にとつて良い絵とは……絵の中から話がいっぱい聴こえてくるような絵であり、それは心の中に仲間がたくさん住んでいる事なのです。先生の熱の入



ったジュエスチュア入りのお話に参加者は笑ったりうなずいたり、各々、子どもの姿を思い浮かべながら聴き聞いていました。

新見先生のお話を聴き子育てに見通しをもてた思いです。先生のお話を聴くチャンスがなかったら間違った子育てをするところでした。子どもの絵が今まで以上にいとしく思われてきました。等々参加者からたくさん感想が寄せられました。あらためて新見先生からのメッセージをおとけしましょう。

- ①親と子が未来をめざして変わっていくこと。
- ②お父さん・お母さん達と保母さん達と地域の人達と力を合わせること(達達の子育て)
- ③思想をこえて子どもの幸せを願うこと。

願う会・元役員/陽光・保母 宗形博美

音楽四重奏を奏しむ

四月十六日に陽光のホールで開催された、東京コレgium・オリジナルの室内楽コンサートは、大変和やかで気持ちの良い音楽会でした。古楽器等と言うと何か難しそう、つい構えた気分が出掛けたが、優しく、澄明な音色に打たれました。古典音楽とは何と人間の豊かなものだろうと、改めて知らされました。四十周年に、この楽団が演奏してくるシンフォニーを楽しみにしていますが、知名度等だけで、食わず嫌いはしないかと心配です。何とか成功させたいものです。(Y)

後援会からのお知らせ

- 七月十五日(土) 夜七時
- 夏の交流会
- 八月十九日(土) 二十一日(月)
- ひいらぎ園(山梨県塩山市)

いっしょにあそびましょう!

子育て相談もどうぞ!

「保育園でいっしょに遊びましょう」の企画をスタートしてから一年が過ぎました。地域の多数の子どもたちがリズムや散歩、砂場あそびに参加して楽しく交流しました。今年もつぎのような日程で計画しています。お子さんと一緒に気軽に遊びに来て下さい。子育ての相談も遠慮なくどうぞ!!

活動しやすい服装でお出かけ下さい。参加希望の方は事前にご連絡下さい。☎(966)1068 陽光保育園 板橋区大谷町上町23の1 時間:午前9時〜11時 対象:就学前の乳幼児 (0歳児〜5歳児)

1989年度予定	
5月18日(木)	6月13日(火)
7月25日(火)	8月10日(木)
9月5日(火)	10月24日(火)
11月8日(水)	12月13日(水)
1月9日(火)	2月8日(木)
3月7日(水)	

2歳児 水・砂・泥

水遊び・砂遊び・泥遊びは、子供達の発達を促していく上で欠くことのできない活動です。水の刺激が皮膚の感覚を通して幼い子どもの脳に送られたことの重要さが叫ばれるようになってきました。小さいとき「この皮膚からの水刺激をたっぷり受けた子どもは、自律神経がたくましく育つということ。薄着で戸外の風にあたり「水や土で遊ぶことで虚弱な体質、アレルギー体質、ぜんそくなども治っていくことがわかってきました。

我々2歳児クラスも今、水・泥・砂遊びに夢中です。4月に崇路君と貴之君の2人が仲間入り。当初、2人は砂場に行くと言つては滑り台の上で逃げて友達、砂遊びをおえるまで降りてきませんでした。ところが、今ではバケツで水を砂場まで運んだり、いろんな容器に砂を入れてトントンとつめこんで、ひっくり返して容器の形をつくって、プリンやケーキにみたくて遊んでいます。全身泥だらけになっても平気です。やはり、この2人にとつても水・砂・泥は格別の魅力であるようです。(M)

0歳児 赤ちゃん体操

毎日、時間を決めてやっています。主に、午前中、暖かい太陽がさす床にバスタオルをしいて、保母、子ども1対1の育ちあいです。赤ちゃん体操は、筋力効果をめざすだけでなく、精神面の向上や、身体リズムの安定など、その子どもへの全人格の発達をめざして、主にソ連で開発されてきたものですが、どんぐり組の赤ちゃん体操は、その基本にたつて、高口博士の赤ちゃん体操、西洋式マッサージ法、東洋医学のマッサージ法などを取り入れて、独自の方法でやっています。

また、その子にあつたやり方もしています。背筋の弱い子には、背筋をつかさどっている脊髄と筋力の刺激、寝がえり間近の子、寝がえりの充実をはかるための寝がえり体操、腹這いが嫌いな子に対しての腹這姿勢と背筋強化法など色々してきました。

これをする事によって、保母との精神的なふれあいや、神経系の充実、発達、身体機能の発達、リズムの安定など、4月からまだわずか2ヶ月半ですが、獲得してきているようです。

1歳児 身体づくりー散歩

0歳の赤ちゃんから一歳児クラスへ。ハイハイから歩くようになり、それまでの世界よりもっと広く高く、視野も広がり、手も自由に動かせるようになり、歩けるようになった喜びをもつと豊かに、楽しくできるのは毎日のように出かける散歩です。車のない路地や公園を選んでいっぱい歩いてきます。幸町団地は虫と野草の宝庫です。「アリがいるよの声に「何だろう」と歩み寄つてくる子ども達。「アツアツ」と指さして見入っています。チョウチョやダンゴ虫、小さな虫も見逃さず発見してきます。

友達や保母といっしょにそんな楽しい発見をしながら、体を動かして足腰に力を蓄えていくのです。ちよつとした段差を飛びおろせることができるようになったり平坦な道から階段や斜面を降り降りするようになったり、小走りしてくるようになったり、毎日の散歩などで少しずつ力をつけ、二本足でしっかりと歩けるようになってきたりだ組です。

Yohkoh Now

20年前ごろから「子どものからだがおかしい」といわれ出しました。上体がかたい、背筋力が弱い、視力の低下、低体温、つかれてゴロゴロする等、さまざまな弱化が見られるようになってきているというのです。生活全体が、子どもたちをそのように弱くする様式に変ぼうしているからではないでしょうか。

遊び、運動、労働など生活全体を変えていくことが子どもの体力と身体をつくっていく上でとても大切であると思ひます。今号では陽光の身体づくりのコーナーをご紹介します。



砂場で楽しく遊ぶ2歳児



ロールマットをする5歳児

4歳児 リズムによって育つ子どもたち

「タン・タン・タン・タラ・ラララ」と、うさぎの曲がピアノから流れると、はじけるように一勢にピョンピョンと両足跳びを始めます。大好きな「うさぎ」をイメージしながら、快いピアノの音に身も心も揺すられ、全身を脱力させて両足跳びをしているうちに、体がほぐれだんだん心も解放されていきます。うさぎ組の子はピアノの速度にあわせて跳べるようになってきました。「めだか」も大好きな曲のひとつです。両腕を前に出して手の平を真ん中で合わせて走り、曲が変わった所で近くの者同志が集まり、手に心をこめて「お話」をします。仲間と遊ぶのが楽しい4歳児は「泳いで〇〇に行こう」とか「ごちそう食べに来てね」とか短い会話を楽しみながら心を高めあひ、また曲が変わると泳いでいきます。他にトンボ、汽車、カメ等も大好きです。

リズムは体を柔軟にしたり調整したり、日常の動きでは使われない筋肉を動かしたり、目的に応じて強化したりすることもできます。楽しみつつ、リズムの楽しさを経験することで、全員が好きになり、さらに力を伸ばすための教材のひとつとして大切にしています。(E)

3歳児 食事について

子ども達の成長発達において、食事は最も重要な位置を占めています。かむ力はあごの発達を促し、内臓をより豊かに成長させます。味はうす味にして、素材の美味をしっかりと教え、好き嫌いをなくし何でも食べられる様にします。離乳食はそういう意味でも大切です。

今まで嫌いだつた物が食べられる様になる事は、生活していく上で、全ての事に自信がもて、より意欲的になっていきます。三歳児クラスでは四月五月と過ごして行く中で行動も活発になり、おかわりをする子が何人もいる位、食欲が出てきました。しかもその中に、全く果物を食べなかつた康介君がいます。康介君は身体も小さく、熱を出す体力がないためか、高熱に悩まされる子です。でも、三歳児クラスになり、活動的な生活をして、ひざの上になつて、日々一口ずつ励ましながら口に入れてあげる生活を続けてきました。そして、今まで全く口にしかかつた、トマト・みかん・メロンを、「おいしい」と言える様になつて、クラスでの活動もグンと自身ももてるようになつてきました。(Y)

5歳児 ロールマット

ロールマットとは、マットを丸めて円柱状にしたものです。それを横にし、その上に寝ばいになります。この時全身を脱力させるように、こぼかけをしながから、手足をマッサージし、脊髄に集中している神経を刺激するように、横にゆらゆらしたり、さすったりします。つぎはあお向け。肩の緊張で手がのびない子には、さすつてやります。逆さの姿勢で両手を下のマットにつき、腰を支え、足の親指に力を入れながら足からあり、といっただ通りのことをします。

この運動は、血行が良くなり、身体各部が刺激されます。かもしか組では、このロールマットを一日一回は必ず行うようにしています。子ども達もロールマットは大好きで、一人がはじけると次々と並んで待っています。気持ちが良いのでしようね。これは、障害児にとつてもかかせない運動で、このロールマットをやつてきた中で、脱力できなかったのが、脱力できるようになり、手の開きもグーンと良くなり手が使えるようになってきました。それと同時に、声の出し方も変化し、言葉が出てきたのです。(R)